

令和6年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『21世紀型“さとうみエコシステム”』

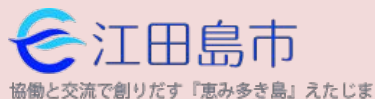
活動団体の活動地域：広島県江田島市

活動団体名：一般社団法人フウド

中間支援主体名：一般社団法人HLL

活動団体と地域の紹介

江田島市



【概要】

広島湾に浮かぶ江田島、能美島とその周辺に点在する島々からなる。広島市や呉市からは6つの航路、呉市からは橋でもつながっており、半島地域として広島都市圏、呉都市圏の機能を分担できる位置関係にある。

【人口】

20,996人
毎年500人以上(人口の約2.5%)減少

【主要産業】

- ◆水産業
- ◆造船・製造業
- ◆農業

【地域資源】

- ◆水産資源
 - ・カキ
 - ・海産物
- ◆農産物資源
 - ・オリーブ
 - ・柑橘類
- ◆環境資源
 - ・自然、教育資源(里海学習、海ごみ清掃)
- ◆観光資源
 - ・アグリツーリズム
 - ・マリンスポーツ
 - ・サイクリング
 - ・トレッキング
 - ・史跡



一般社団法人フウド



【目的】

江田島市を中心とした広島湾周辺地域の風土を生かした活動を通じて、地域の活性化に寄与し、次世代に誇れる文化を創造していく

「誇れる風土を次世代に」をミッションに、
2018年11月に設立

- ◆ 移住定住促進:江田島市への移住相談対応、空き家バンクの運用
- ◆ コミュニティづくり:コミュニティスペースの運営
- ◆ 観光事業:観光商品の造成・催行(旅行業登録済)、観光イベントの企画運営
- ◆ 企業誘致:都市部企業の誘致のための情報発信及び視察対応
- ◆ 人材育成:企業や団体の研修受け入れ
- ◆ 海づくり事業:海岸清掃活動、海洋教育、普及啓発
- ◆ 情報発信:まちづくりに関する各種情報の発信



活動計画(概要)

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

21世紀型“さとうみエコシステム”

古くからの営みと新時代の社会経済の組み合わせによって里海の風土と生態系がより良い状態で循環し続けるとともに、人材の還流と経済の循環によって適切な人口構造が保たれる、**自然にとっても人にとっても幸福度の高い島**

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

域内外の多様なステークホルダーが連携・協働を図り、自立分散型の持続可能な地域づくりを進めることが重要。

事業実施主体を伴走支援する組織と**事業を審査し投資する機関**を構築し、域外からの資金獲得、人づくりと仕事づくりの好循環を目指す。

ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ①豊かな海づくり事業~ブルーカーボン及びふるさと納税制度を活用したエコシステム~
- ②“さとうみ”ブランドによる
ツーリズム&研修事業
- ③エシカルフード事業
(江田島産の食品のブランド化)

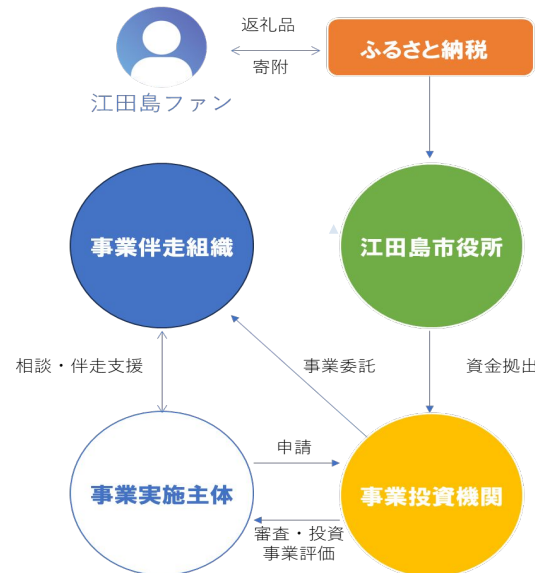
地域の現状

- ・観光等での消費は流入も、投資と経常収支では流出が顕著
- ・移住者等、飲食店や宿泊施設を開業する個人や事業者の増加→メディア露出増
- ・まちづくりの動きはあるものの、各ステークホルダーの横の連携が不十分
- ・里海学習の推進、海岸清掃を行うボランティア団体や個人の増加
- ・豊富な水産資源、主な域外所得となる造船業や水産業が強みであるが、海ごみやCO₂排出量の問題も。
- ・コロナ禍を経て回復傾向にある観光業 ・とどまらない人口減少と少子高齢化

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

当初の体制・仕組みイメージ

地域プラットフォーム: さとうみエコシステム推進協議会(仮)



ローカルSDGs事業の詳細

地域プラットフォーム（PF内のメンバーやコアメンバー）で生み出そうとしているローカルSDGs事業の詳細

①未来の海づくり大作戦

江田島市を中心とした多様な担い手による未来の海づくりプロジェクト

・瀬戸法で一見きれいになった海を、豊かな海に再生する

（藻場造成・増殖・ワカメ増産・干潟の管理）

・結果、海と親しむ生活（教育・マリンスポーツ）や

産業振興（牡蠣養殖・近海漁業・体験観光）に資する

・取組は、カーボンニュートラルの達成に向け、各プレイヤーの活動財源に

Jブルークレジットを活用



ローカルSDGs事業の詳細

地域プラットフォーム（PF内のメンバーやコアメンバー）で生み出そうとしているローカルSDGs事業の詳細

②さとうみツーリズム

里海の資源を活用した観光産業を育てる。

- ・現在、一社フウドをはじめ、各団体が新たに観光事業を立ち上げつつある
- ・江田島におけるツーリズムのコンセプトとして「里海」を軸にしたブランディングを図る。
- ・連携先は、江田島市観光協会、さとうみ科学館、江田島エコツーリズム協議会、江田島荘を想定



ローカルSDGs事業の詳細

地域プラットフォーム（PF内のメンバーやコアメンバー）で生み出そうとしているローカルSDGs事業の詳細

③エシカルオイスター

牡蠣で生産者～消費者を巻き込んだ、海ゴミ問題解決仕組み&ムーブメントづくり

- ・江田島周辺の海ゴミ問題として従前の課題である牡蠣養殖の過程で発生するプラスチックゴミ。既に環境にやさしい技法への代替手段は開発されているものの、生産者だけではコストを負担することが難しく普及に至っていない。
- ・江田島市と協力し、企業版ふるさと納税事業として賛同企業から寄付を集める。
この資金を財源として牡蠣養殖業者が環境にやさしい技法を導入する際の補助制度を作り、生産者の負担を軽減することで普及に努める。
- ・企業の寄付活動に対する広告宣伝効果を高め、本取組み自体を消費者を巻き込んだムーブメントとして拡大させるために広島のローカルテレビ局を共創パートナーとして活動する。
また、環境にやさしい技法を導入することが生産者に対する更なる価値提供に繋がることを目的に「さとうみエシカルオイスター（仮）」として認知拡大、ブランド化を進めていく。

3か年状態目標

2026年度末の状態目標

- 地域循環共生圏を実現するための事業の伴走支援を行う組織と事業の審査と投資をする機関が立ち上がっている状態。
- 上記機関をはじめ、各ステークホルダーも含めた、エコシステムの推進体制(=プラットフォーム)が構築されている。
- ローカルSDGsとなる事業が3つ以上実証段階に入っている状態。

2025年度末の状態目標

- 地域循環共生圏を実現するための事業の伴走支援を行う組織と事業の審査と投資をする機関の立ち上げ準備が整っている状態
- 各ステークホルダーとビジョンが共有され、エコシステムの推進体制構築に向けて準備が整っている状態。
- ローカルSDGsの事業計画が完成している状態。

2024年度末の状態目標

- 地域のビジョンが可視化され、ステークホルダー間で共有されている状態。
- ステークホルダーの構造が可視化され、プラットフォームのあり方が言語化されている状態。
- ローカルSDGsの事業構想が練られている状態。

活動計画



中間支援主体より

中間支援主体の紹介

広島をフィールドとし、多様な人と人とのつながりや、分野や業種を越えた共創活動により、地域・行政・企業等の課題解決に取り組むことを目的とした団体。同じ志を持つ会社員、自営業者、社会起業家、フリーランス、市民団体など多様なバックグラウンドを持つメンバーを中心に、様々な自主プロジェクトや、企業・行政・団体等との連携プロジェクトを推進している。

活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

◆取組へのコメント

・江田島市でいつも中心的な役割を担い続けている活動団体に、島のパワーアップに欠かせないパートナーとして声をかけてもらえ嬉しいです。

お互い、よい距離感で、何が起きるかわからない近未来を楽しみながら創っていきたいです。

◆対応方針と打ち手◆

①活動団体の、

中間支援的ポジションを肩代わり

- └ 中間支援団体の中間支援的振る舞い
(俯瞰的に見る、全体を調整する)
- └ 動きながら、学び、整える
- └ 多様な、自立分散の動きの交通整理
(意味付け、関連付け)

②活動団体の、

プレーヤーとしての力を引き出す

- └ 活動団体とのカベ打ち
(やりたいことの言語化、視覚化)
- └ ステークホルダーとの話し合いの同席
- └ 先行事例への視察
(AMAホールディングス@島根県海士町)